



### いなかとまちのくるま座ミーティング

第1部 基調講演



小原 OBARA

#### 地域は家族の集まりだ

2月6日(金)に小原交流館で、おいでん・さんそんセンター主催の『いなかとまちのくるま座ミーティング』が行われました。第1部は、民俗研究家・結城登美雄氏による基調講演でした。結城氏は東北地方を中心に、約六百の農山村集落を訪ね歩き、「地元学」を提唱・実践されている方です。「地域」とは「家族の集まり」です。そして英語で家族を意味する「Family」には、『一緒に耕し、一緒に食べるものたち』という意味があります。

明治初期、日本は七万三千三百十四の小さな村の集まりでした。そして、日本人の90パーセントは、小さな村に暮らしていました。村の平均規模は60〜70戸。人口は三百七十人前後でした。その「自然村」が自治区町村に変わり、地域社会は生活を担い、企業社会が経済を担う、という様に社会のあり方が変わりました。その結果、少子・高齢化、無縁社会、貧困格差など様々な問題に私たちは直面しています。「村の暮らしを支えたものは、『自然・生



産・生活』であり、それは「つくる暮らし」でした。しかし都市の時代へと移り、暮らしを支えるものに「企業」がプラスされ、『買う暮らし』へと移ってきました。それにより、お金が無くなると何も出来なくなるような社会の基盤の脆さが出てきました。これからの社会は、地域の皆で支えあいながら、市場経済に預けてしまったものを、取り戻せることから取り戻す。これが地域経済に関与していくと思います。」講演の後半では、宮城県大崎市鳴子温泉で行われている「鳴子の米プロジェクト」を紹介いただき、高齢化が進み、耕作放棄地が目立つようになった地域で人々がどのように、一丸となつて問題に取り組んだかを紹介していただきました。

#### 農山村のココが

## 好きなんんでSHOW

このコーナーでは、おいでん・さんそんセンターの活動を支える「プラットホーム会議」のメンバーが、農山村で気に入っている「場所・コト・モノ」などについて語ります。

村田 元夫

#### 今日の語りすと



「地域スモールビジネス研究会」は、豊田市の農村部にU・Iターンした若者約20人の集まりで、私は、その事務局的な仕事をしながら彼らの農的生活やスモールビジネスの展開に関わらせてもらっています。

先日、都市で若者の学び場を運営する団体と本研究会が交流する機会があり、その最後に、都市に住む女性が「農山村は、本当にクリエイティブ」と感想を洩らしました。子育てをしながら短歌を読み、仲間の協力を得ながら自宅を建て、中古の軽トラを改造して電気自動車を開発し、おすそ分けの野菜で手料理をふるまう。農山村の暮らしぶりが、便利な都会に暮らす若者をワクワクさせました。その違いは、「与えられ過ぎの生活」と「自ら造る生活」なのだと思います。



「森が管理されていない」5割、「10年後は管理できなくなる」3割、合計8割。昨年9月に足助支所が76自治会長を対象に行ったアンケートの結果の一部である。私たちは、平成12年の東海豪雨災害から森の健全化の重要性を学び、平成17年の市町村合併のひとつの拠り所にもなった。森づくり基本条例が制定され、森づくり会議の設置、団地化による間伐促進が精力的に進められてきた。(平成26年度末見込み、90会議、340団地、約六千九百ヘクタール、団地化率23%)そして、森づくりをサポートする森林ボランティアや市民活動団体も多く生まれてきている。しかし、間伐による森の健全化が図られた森林は一部にとどまっており、自治会長のアンケート結果は、素直にこれを表している。山主の高齢化とともに境界面定の困難性が増しており、速やかな事業推進が望まれる。また、環境政策としての森づくりに加え、産業政策、林産物への木材利用、大規模製材工場の誘致などを通じ地域材の活用を進め、経済面からも人々が森に向き合う環境を作らなくてはならない。都市と農山村は川でつながり、どこに暮らしているよと人は森によって生かされていることを、森づくりは山主だけの問題ではないことを、ていねいに伝えていくこともセンターの使命であると思う。

センター長のミライのフツリーに向かって!

センター長 鈴木辰吉

### イベント情報

3/22 (日) 第4回 ほんわか里山交流まつり in 笹戸温泉  
日時: 3月22日(日) 10:00~14:30  
場所: 笹戸会館(豊田市笹戸町平畑1)  
内容: うちはやし、棒の手、わらべうた、舞踏ウォーキング、書籍販売、コンサート、アフリカダンス、薪割り、子どもの遊び場 など  
出店: つきたて餅、焼き菓子、染め物、五平餅あゆ塩焼き、手作りソーセージ、いのししフランクオーガニック珈琲、甘酒チャイ、塩こうじ など  
主催: 第4回ほんわか里山交流まつり実行委員会とよた都市農山村交流ネットワーク  
後援: おいでん・さんそんセンター  
協力: 笹戸温泉振興会、旭観光協会、笹戸自治区、豊田市  
問合せ: おいでん・さんそんセンター tel 0565-62-0610  
または実行委員会山本 tel 090-5453-6411  
★来場者に、笹戸温泉「とうふや」入浴割引券(500円分)進呈!(枚数に限りあり、先着順)

3/16 (月) 研修会「農家民泊のすすめ」  
日時: 3月16日(月) 18:30~  
場所: 「杉ん子」農山村交流・中継センター(旧杉本保育園)豊田市杉本町三斗成1の3  
内容: 地域活性化の一つのヒント、農家民泊。全国でも先駆けて取り組んできたのが長野県飯田市で、その仕掛け人が当時、市職員であった井上弘司氏です。今回は農家民泊の効果、実践方法などをお話していただきます。  
●農家民泊とは・・・  
都会の人々が農家に滞在して、田んぼや畑の作業、果実の収穫等の体験を通して、農山村を実感し、農作業の喜びや地域の人々とのふれあいなどを楽しむための宿泊施設です。農水省、愛知県、豊田市も農家民泊の開設を支援しています。2005年には旅館業法などの規制緩和が行われ、既存の住宅を利用した小規模な農家民泊が、開業しやすくなりました。全国ですでに1000軒以上の農家民泊が誕生しています。(基本的に1グループ5、6人までの宿泊を想定しています)  
【対象】どなたでも。農家民泊、地域おこしに興味のある方、どんなもんかなと思われる方、ぜひおいでください!  
【参加費】無料  
【主催】とよた都市農山村交流ネットワーク

その他の情報はセンターHPをチェック!

http://www.oiden-sanson.com/event/